



発行所
 十勝毎日新聞社
 ©十勝毎日新聞社 2007
 〒080-8688
 帯広市東1条南8丁目
 TEL(代表)0155-22-2121
 集局 0155-22-2121
 編告局 0155-23-2323
 広販局 0155-24-2222
 事業局 0155-22-7555
 総務局 0155-24-2299

カムイロケット

来年3月に再実験

安全対策 落下誘導も検討

【大樹】NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)が8日に打ち上げた

道産ロケット「CAMUI(カムイ)ハイブリッドロケット」のパラシュートが開かず、スタッフら8人がいた司令室のテントに落下した実験で、打ち上げ管理責任者の伊藤一HASTIC副理事長らは、同日の記者会見で、安全対策を進めた上で、来年3月にも同型ロケットの打ち上げ実験を実施する方針を明らかにした。機体の開発に携わるカムイスペースワークス(赤平市)の植松努社長は「機体の信頼度を上げるためにこそ打ち上げ実験が必要だ」との信念を語った。

今回の実験は公立ほこだて未来大学の学生が製作した超小型模擬衛星(CANSAT)を搭載。実験では、ロケットの分離装置のタイマーが作動しなかったためパラシュートが開かなかっ

た。HASTICは、この日打ち上げ予定だったほかの機を調べたところ、いずれもタイマーが作動せず、タイマーの部品不良などが原因とみて詳しく調べている。

今後の安全対策については、司令室の位置を発射点から安全性の高い真後ろに移動させ、発射点から50メートル引き離す。万一、パラシュートが開か

なくても機体落下の方向を調整する軌道誘導システムの開発にも取り組む。

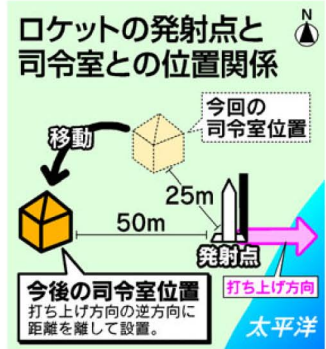
打ち上げ実施責任者の永田晴紀北大大学院教授は今回の件で、安全がすべてに優先することを改めて学んだ」と述べた。

カムイロケットは、8月に今年よりも大きな機体を使い成功を収めた。来年3月に再度、大型機の実験を行う計画だったが、予定を変更し、今回と同型機の打ち上げに再

度挑戦する。大樹町の伏見悦夫町長は「町としては引き続き全面的に応援していきたい」としている。実験で分離装置を担当



打ち上げ実験後に記者会見する伊藤副理事長、永田教授、植松社長(左から)



(北雅貴)